

# 2024年のパリオリンピックに向けた フランスのスポーツ施設について — プレコロナの2019年における現地記録として —

高橋 和文

Kazufumi TAKAHASHI

About sports facilities for the 2024 Paris Olympics Games  
— A Field study in 2019 before coronavirus pandemic —

## はじめに

本報告は、フランスにおける2024年パリオリンピックに向けた取り組みを調査したものである。調査期間は、東京オリンピックが開催される予定だった2020年の前年にあたる2019年4月28日から2020年3月10日まで、筆者の特別研究期間を活用して実施した。この調査期間中、フランスでは、歴史的な出来事が少なくとも3つ発生した。1つは6月と7月にサハラ砂漠から熱波が到来し、2019年6月28日にはフランス観測史上最高の摂氏46°Cの気温を記録したこと、2つは2019年12月5日から2020年1月20日にかけてフランス国鉄SNCFが史上最長47日間のストライキを実施したこと、3つが新型コロナウイルスの感染拡大である。これら3つの出来事は、少なからず本調査に影響を及ぼしたわけであるが、特に新型コロナウイルスの感染拡大は、WHOが2020年3月11日にパンデミックを宣言し、この報告書を執筆している2020年10月時点では、欧州での第2波が深刻化している。世界中で新型コロナウイルスの感染対策は続いており、いつになれば収束を向かえるのか、いまだに見通しがつかない。新型コロナウイルスの感染拡大は、この調査の主題であるオリンピックにも影響を及ぼした。2020年に開催予定であった東京オリンピックが、戦争以外の理由では史上初めて延期が決定した。2020年3月、当時の日本の安倍首相が、延期の決定に際し、「今後、人類が新型コロナウイルス感染症に打ち勝った証しとして完全な形で東京大会を開催するため・・・」（朝日新聞デジタル、2020年3月24日）と発言した。この発言は、新型コロナウイルスにより世界人類が甚大なダメージを受けていることを象徴しており、パンデミックの前後では、オリンピック開催の意味が、大きく変化するであろうことを示唆している。

したがって、本調査が主題とする2024年パリオリンピックのあり方そのものも、おそらくパンデミック前後では大きく変化する可能性があり、少なくとも今後のオリンピックの開催には、感染症対策の徹底を求められることが不可欠になったと考えられる。その意味において、本調査は、WHOの新型コロナウイルスのパンデミック発令前（発令は2020年3月11日）であったので、オリンピックの感染症対策については、十分な調査ができていない。しかしながら、本調査が、パンデミック前に実施できたことは、プレコロナにおけるスポーツと人の関わり（とりわけオリンピックに及ぼす影響）を記録する意味において意義深いといえる。

2024年にフランスでパリオリンピックが予定通りに開催されると、1992年のアルベールビル冬季大会以来であり、夏季に限ると1924年のパリ大会以来、実に100年ぶりとなる。当初の予定では2020年（執筆時点では2021年に延期予定）には日本の東京で夏季オリンピックが開催されることになっており、2024年のパリ大会は、夏期としては東京の次の大会に位置づけられる。東京が1964年以来、（2020年の開催なら）56年ぶり2度目の開催であり、久々に夏季大会を開催するという意味において、東京とパリでは、共通している。また、オリンピックとは異なるが、ラグビーのワールドカップは、2019年に日本で開催され、2023年はフランスで開催される予定である。つまり、夏期オリンピックの前にラグビーのワールドカップを開催することにおいても、日本とフランスは共通している。このようにスポーツのメガイベントが開催される背景には、それらを契機として、開催国の政治や経済を活性化し、スポーツイベントをきっかけに街づくりや社会を変化させる意図があると考えられる。例えば、2012年のロンドンオリンピックを契機に、郊外の再開発に成功した事例は、数多く調査され、報告されている（竹島ほか2015、秋山2015、藤田ほか2019）。フランスは、2019年から2020年の本調査時点において、EUの盟主としての、移民や難民問題を抱えており、若者の高い失業率や年金制度改革への対応など、内政の改革に取り組んでいる。さらに、2019年4月15日には、パリノートルダム大聖堂の火災により、パリ市民の心のよりどころとされるシンボリックな尖塔が崩壊する出来事も発生した。直後にマクロン大統領は、2024年のパリオリンピックが開催される年までに、焼失部を再建すると表明（毎日新聞、2019年4月17日版）して、復興の象徴としてオリンピックとの関連性を意識していた。他にも、フランスは、地球温暖化対策を念頭に置いた街づくりなど、オリンピックを見据えた取り組みもある（原、2019）。

本調査は、2019年4月から2020年3月までの期間に主にフランス国内において調査した内容に基づき、プレコロナにおける2024年パリオリンピックに向けた関連施設の現状と取り組みを記録したものである。特にオリンピックが開催される予定の、パリ市内の

施設については、メガイベントの実施に際し（プレコロナにおける）最大の懸念であったテロ対策の様子を中心に報告する。また、パリオリンピックの地方都市の会場（サッカー会場）であるトゥールーズ市のスポーツ施設の状況やオリンピックに向けたイベントについて、現地調査をまとめたものである。

これらを記録することで、オリンピックをはじめとしたメガスポーツイベントが、2024年パリオリンピックの開催を控える（プレコロナにおける）フランス社会が抱える社会的課題を解決する手段として、どのように活用されようとしていたかを知ることができよう。また、本調査は、パンデミック後（ポストコロナ）に変化するであろうオリンピックの位置づけが、フランスにおいてどのように変容していくのかを知る手がかりとして、パンデミック前（プレコロナ）の状況を記録した資料として意義があると言える。

## 方法

本調査は、2019年4月28日から2020年3月10日までの期間、トゥールーズ第3大学を拠点に、フランス国内のオリンピックに関連する施設や取り組みを調査した。この間、パリでは、2019年6月7日～12日、9月3日～8日、10月5日～9日、11月8日～13日の4度、計23日間に渡り調査をおこなった。また、筆者の拠点としたトゥールーズは、2024年パリオリンピックでは、サッカーの開催が予定される都市であり、関連施設の調査を実施した。さらに、トゥールーズ市においては、メガイベントとしてのツール・ド・フランスへの取り組みやオリンピック関連イベントも調査した。本研究では、上述した場所における現地の状況や取り組みを、実際に経験した出来事や入手した資料や情報に基づき、2019年（プレコロナ）における状況を紹介するものである。

なお、本報告書には、紙面の関係で触れないが、過去にパリ以外でオリンピックが開催されたフランス国内の都市の調査として、シャモニーに2019年8月10日～8月13日の4日間、グルノーブルへは2020年2月5日～7日の間に、現地の状況と資料収集に努めた。フランス国外では、IOC（The International Olympic Committee）本部があるスイスに2019年8月13日～15日の3日間滞在し、ローザンヌ（オリンピック博物館や併設図書館等）で調査を敢行し、2020年2月14日～16日は、スペインバルセロナ（1992年夏季大会開催）にて、オリンピック関連施設の調査と情報収集をおこなった。

## 結果および考察

### (1) パリオリンピックの会場予定地

2024年のパリオリンピックは、多くの会場が選手村から10 km以内の範囲で、設定されている。パリは、世界でも屈指の観光地であるが、会場の中には、エッフェル塔やシャ

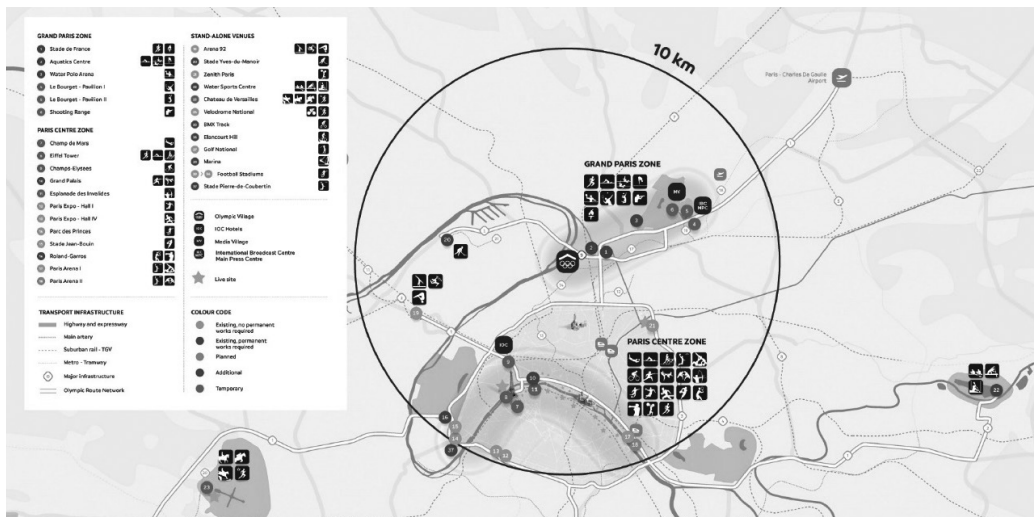


図1 2024年パリオリンピック会場予定地 (olympic.orgより一部加工して引用)  
備考 地図によると10km円の中心が選手村である。選手村は2024年のメイン会場であるパリ北郊外にあるサン=ドニ「stade de france」近郊に設置が計画されている。

ンゼリゼ通りを含めている。パリオリンピックは、市民生活の開かれた場所でも身近にスポーツを感じられることをコンセプトとして位置付けている。詳しくは、図1の2024年パリオリンピックの会場予定地地図を参照していただきたい。(文字が読みにくいところは、引用元を参照していただきたい)

また、郊外に目を移すとベルサイユ宮殿も会場の一つとして予定されており(図1の左下にある4競技が実施予定の場所)、いわゆるスタジアムや専用施設でない場所を、オリンピックの会場として使う柔軟性をもって、2024年に向けた準備がなされている。例えば、テニスの4大会で有名な全仏オープンの会場「Roland Garros」では、テニスだけでなく、ボクシングの会場としても計画されており、施設運用の柔軟性は高いと考えられる。

## (2) メイン会場「stade de france」について

「stade de france」は、1998年のFIFAワールドカップ・フランス大会のメイン会場として設立された。この競技場を別の意味で注目させたのは、2015年11月13日に、男子サッカーの国際親善試合(フランス対ドイツ)の最中に、会場とその周辺で爆弾テロが実行されたことである。この日は、パリ市内の複数の場所でテロが発生し、パリ同時多発テロ事件として、歴史に記録されている。

2019年の調査時点において、stade de franceでは、フランス語もしくは英語による会場ツアーを実施しており、選手のロッカールームや警察官の待機所(写真2)などを見





写真1 stade de franceの外観（筆者撮影）  
備考 スタジアムの周りは柵でおおわれており、その入口には、警備員が常駐していた。



写真2 取調室の様子（筆者撮影）

学することができる。ガイドによると、テロを未然に防ぐことや暴徒への対応として、不審者がいた場合は、スタジアム内の取調室で警察官による尋問がなされるとのことであった。

また、このスタジアムの特徴は、可動式の座席にある。スタジアムは、サッカーやラグビーの球技だけでなく、陸上競技でも活用される。座席を可動式にすることで、サッカーなどの場合は、芝生の近くまで座席を増やせる（写真3）。一方で、陸上競技の場合は、座席を減らすことで、トラック上の競技スペースを確保している。このように、座席を可動式にすることは、スポーツを身近に柔軟に楽しむフランスらしい工夫と言える（写真4）。



写真3 可動式の座席システム（筆者撮影）



写真4 サッカー国際親善試合前の準備状況（筆者撮影）

### (3) 「Roland Garros」におけるスポーツの実施状況

「Roland Garros」は、テニスの世界4大大会の一つ全仏オープンが開催される。筆者は、2019年の全仏オープンの開催に合わせて、施設内と施設周辺の様子を調査した。地下鉄の最寄り駅から、テニスコートまでの間には、複数の場所でボディチェックと荷物検査をおこなう場所が設置されていた。



写真5 荷物検査の様子（筆者撮影）

入口ゲートでは、入念なボディチェックと荷物検査がおこなわれていた（写真5）。一般にフランスではボディチェックの際に、男性と女性のスタッフが配置されており、観客の性別に応じて、対応がなされる。

入口ゲートをくぐると、その後は、チケットのランクにより入場できる場所が決められている以外は、自由が保証されている。入口の警備が厳重な理由は、入場後の安全と自由を確保するための措置であることが理解できる。

施設周辺の警備は、道路沿いにバリケードが設置されたり、警察官の車両で道路を封鎖するなど、テロを防ぐための厳重な警備がなされていた（写真6、7）。



写真6 出口付近の状況（筆者撮影）



写真7 会場周辺の道路を封鎖している様子（筆者撮影）

### (4) 「Parc des Princes」におけるスポーツの実施状況

「Parc des Princes」は、2024年パリオリンピックのサッカー会場として予定されている。筆者の調査は、2019年にフランス全土を会場として開催された、FIFA女子サッ

カーワールドカップの際に、スタジアム内とその周辺を調査したものである。Parc des Princesは、先のRoland Garrosや競馬の凱旋門賞が開催されるロンシャン競馬場とも近い場所（ブローニュの森の南側）に位置している。

会場周辺の警備状況は、Roland Garrosとも似通っており、スタジアム周辺は警察車両やブロックで道路を封鎖することや、警察官が巡回するなどの様子がうかがえた。ただ、印象としては、Roland Garrosよりもおおざっぱに配置されており、スタジアム周辺をざっくりと警備している様子であった（写真8、9）。

入場ゲートは、ボディチェックと荷物検査があり、ペットボトルも含めて持ち込みが厳しく管理されていた。また、入口前後には、警備スタッフ以外にもボランティアスタッフが多数配置されており、来場者に対して、親切に接する場面も見受けられた。これらスタッフの親切な対応が、警備の印象を和らげる効果を持っているように感じられた（写真10、11）。



写真8 スタジアムの手前をブロックで封鎖  
(筆者撮影)



写真9 パトロールを続ける警察車両  
(筆者撮影)



写真10 警備スタッフと試合前の様子  
(筆者撮影)



写真11 試合後の会場周辺と警備の様子  
(筆者撮影)



## (5) エッフェル塔周辺でのスポーツイベントの様子

エッフェル塔周辺も2024年パリ大会の会場として計画されている。筆者が調査した6月8日は、エッフェル塔周辺でランニングイベントが開催されていた。写真13のとおり、選手は交通規制がなされた道路上を走り、観光客は歩道を歩くよう区分けされていた。交通規制は、選手の安全を確保する程度であり、警備は、Roland GarrosやParc des Princesほど嚴重ではなく、観光客がコース上に入らないように規制がなされていた。写真12を見ればわかるが、選手が走っている道路上（道路と歩道の区分けの道路側）を観光客が歩く様子もあり、Roland GarrosやParc des Princesと比較すると柔らかな規制の様子が伺えた。

なお、エッフェル塔周辺は、2024年に向けて持続可能な開催の象徴として、現在よりもより緑豊かな公園にデザインされることが、2019年に発表された。また、2021年からはエッフェル塔の麓にあるシャン・ド・マルス公園内にグラン・パレ・エフェメールという施設が建設され、柔道とレスリングの会場になることが計画されている（Explore France、2019）。

そもそもパリ首都圏は、大規模な再開発計画を検討しており、オリンピックを契機としたエッフェル塔周辺の再開発の背景には、パリ協定に代表されるような環境問題も考慮されている。2015年に採択された「パリ協定」は、脱炭素社会への移行を掲げており、在日フランス大使館（2018）によると、2024年パリ大会は、「気候に関する歴史的なパリ協定の流れの中に位置づけられる最初のオリンピック・パラリンピック大会」として、「2012年や2016年よりも、カーボンフットプリントを55%削減する」とされる。持



写真12 エッフェル塔周辺でのランニングイベントの様子（筆者撮影）



写真13 トロカデロ広場周辺を走るランナー（筆者撮影）



持続可能な大気汚染への対策は、フランス国内やパリ市内の自動車を規制する動き、地下鉄の延伸計画など多岐にわたる。プレコロナにおける当初の計画では、パリ市内を走る自動車や自動車道路の規制や、自転車の利用推進や自転車道路の建設を拡大する取り組みとあわせて、持続可能な環境問題への対策を盛り込んだ準備がなされてきた。渡瀬(2020)によると、コロナ感染症により2024年パリ五輪の開催準備は、大規模開発に遅れが生じており、パリ五輪会場をつなぐ地下鉄の延伸計画も見直しがなされているとの指摘もある。一方で、コロナ感染症の対策として、公共交通機関の混雑を緩和することに加え、大気汚染の防止の観点から、フランス政府は自転車の利用促進策を打ち出した。AFP BBNews(2020年9月20日)によると、フランス政府の自転車修理やアップグレードの補助金制度は好評のため、さらに拡充する方針である。パリなどのフランス各都市は多数の車道に「コロナピスト」という自転車専用レーンを設置しており、5月のロックダウン(都市封鎖)解除以来続いているサイクリングブームを後押ししている。これらのウィズコロナの側面からは、コロナ感染症による影響が2024年のパリオリンピックに向けた開発にも影響を及ぼす一方で、自転車の利用促進策が、コロナ感染症と環境問題への2重の対策を試みようとするフランス政府と国民の柔軟性とたくましさを浮き彫りにしている。

#### (6) トゥールーズ市におけるスポーツイベントの状況

トゥールーズ市は、フランスの南西部に位置する都市である。都市規模は、フランスで第4位の都市として人口461,190人(トゥールーズ都市共同体には、1,200,000人)、エアバス社の本社があることで、歴史と科学技術の融合した街である(トゥールーズ観光局プレス資料、2015)。トゥールーズで最も人気のスポーツチームは、ラグビー Top14 のスタッド・トゥールーズであり、2019年のTop14ではチャンピオンに輝いた名門である。トゥールーズ市のスポーツ施設で日本と縁があるのは、日本が初めてサッカーワールドカップに出場した1998年のフランス大会において、記念すべき初めての試合をおこなったスタジアム「Stadium de Toulouse」である。このスタジアムは、2024年のパリオリンピックでもサッカー会場の一つとして使用されることが決まっている。2019年の時点で、このスタジアムは、サッカーリーグ・アンのトゥールーズFCの本拠地として使用されている。試合やイベントのない日のスタジアムは、スタジアム内にあるグッズショップへの立ち入りはできるものの、それ以外のゲートは閉ざされている。リーグ・アンの試合がある日は、ゲートが厳重に警備され、チケットの確認だけでなく、荷物チェック、ボディチェックがなされる。これらのチェックは、先に述べた女子サッカーワールドカップの時と同じような手順であった。スタジアム観戦の場合は、サッ



写真14 サッカー試合当日の「Stadium de Toulouse」(筆者撮影)



写真15 ボディチェックや荷物チェックをしても発煙筒が持ち込まれた状況(筆者撮影)

カーでもラグビーでも、入場時には、必ずボディチェックがなされる(写真14)。異なることは、試合規模によって、入場時の混雑具合が異なる程度である。とは言え、観戦した試合の最中には、発煙筒が火を噴くこともあり、嚴重な荷物チェックの難しさにも遭遇した(写真15)。

また、このスタジアムは、他のイベントにも積極的に利用されている。例えば、2019年には、フランスで最大のスポーツイベントとも言えるツール・ド・フランス第12ステージのスタート地点としても利用された。さすがにツール・ド・フランスの警備は、嚴重である。街中では沿道と自転車を通る道路の間には、バリケードが設置される。一般の観戦者は、バリケードの中には立ち入ることが許されない。その徹底ぶりは、サッカーの試合の比ではない(写真16)。

第11ステージ(トゥールーズがゴール地点となる日)に筆者は印象的な出来事を目撃

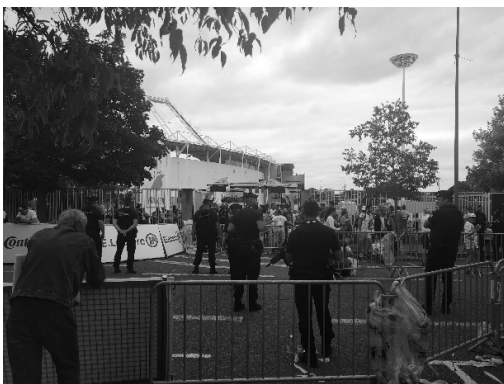


写真16 2019年ツール・ド・フランス第12ステージスタート地点「Stadium de Toulouse」(筆者撮影)



写真17 2019年ツール・ド・フランス第11ステージ(トゥールーズ市内ゴール近くの座席の様子)(筆者撮影)

した。その出来事とは、車いすの人が介助の人と一緒に、バリケードの設置された道路（自転車のコース）を横断しようとしても、警備の警察官は、絶対に認めない場面であった。この出来事は、選手が通過する3時間以上前の出来事で、コース上には、警備の警察官しかいないにも関わらずである。さらに、間の悪いことに、最寄りの横断できる場所として設置されていた地下鉄駅のエスカレーターが故障した状況（エレベーターは動いていた）も重なっていた。介助者がいくら声を上げてても、警察官は、道路を横断したい場合は、誰であっても遠回りをして、駅の地下通路を通るなど決められた地点での横断をしてくださいとやりとりをしていた。イベントの徹底した警備は、安全面を確保するための措置である一方で、日常生活における不自由さも起こりえることを物語っていた。他方で、写真17は、ゴール手前に設置された障がいのある人が応援できる座席である。この座席の横には、人々がコースを横断できる場所がきちんと確保されており、車いすなどの介助が必要な人も、アクセスがしやすいような配慮もなされていた。大規模イベントにおける警備の徹底と配慮の在り方は、毎年、ツール・ド・フランスというメガイベントを成功させているフランスの経験を、他のスポーツイベントでも活かすことができるように感じられた。

その他、トゥールーズ市におけるオリンピックに関連したイベントとしては、6月23日のオリンピックデーにあわせたものがあった。オリンピックデーにおけるイベントは、フランスの全国各地で実施され、特に2024年のメイン会場のあるパリでは、大きなイベントがなされテレビ中継がなされていた（写真18）。トゥールーズ市でも気運を盛り上げようと、前日の22日にイベントが実施された。残念ながら、筆者は体調不良（熱波の暑さによる）のため、当日の様子を調査できなかったものの、国家の一大イベントとし



写真18 フランス3によるTV中継（2019年6月23日のオリンピックデーの様子）が中継された様子）



写真19 仏紙LADEPECHE.frによるオリンピックデーのトゥールーズ市（2019年6月22日）の紹介記事

での2024年パリオリンピックの気運を盛り上げようとする取り組みは、フランス各地の地方都市でも取り組まれていることを確認できた。例えば、トゥールーズ市では、写真のような一般紙による報道だけでなく、市の公式HPやアプリを通じて、イベントの開催を呼びかけており、調査時点では5年先のイベントではあるものの、パリオリンピックの気運を高める取り組みがなされていた（写真19）。

## おわりに

本報告は、2019年4月から2020年3月の期間に、2024年パリオリンピックに向けたフランスの取り組みを現地で調査したものである。おりしも、筆者がこの調査から日本に帰国した直後、WHOは新型コロナウイルスのパンデミックを宣言した。パンデミックの前後で、世界中の人々の生活は一変した。

筆者が、パリの調査をおこなった時点では、新型コロナウイルスのことは念頭になく、主に2024年パリオリンピックに向けたテロ対策の在り方に主眼を置いて調査をおこなっていた。それが、この報告書を執筆する時点では、新型コロナ感染症が、スポーツやそれに関わる人々の生活にも影響を及ぼした。本調査の報告は、コロナとは無縁の時代に調べたものである一方で、プレコロナにおける取り組みを記録した貴重な資料になると考えた。

2019年のテニス全仏オープン「Roland Garros」や女子サッカーワールドカップは、安心してスポーツを観戦できるための入場時のボディチェックや荷物チェック等のセキュリティチェックに重点が置かれていた。施設周辺には、警察官が多数配置され、バリケードを設けることで、施設を厳重に警備していた。これらの取り組みにより、施設内におけるスポーツ観戦者の安全と自由が保証されていた。スタジアム内で、人々は大声で歓声を上げ、様々な国の人々が会話を交わしながら、スポーツを楽しんでいた。メイン会場となる予定の「stade de france」では、イベントがない日でも警備員が入口に立っていた。「stade de france」の観戦ツアーでは、まず最初に、警察官の取調室を紹介されるなど、テロ対策を含む安全への意識の高さが伺えた。

オリンピックとは異なるが、ツール・ド・フランスの会場では、道路の横断は決められ場所では絶対には認めない徹底した警備の様子も確認できた。2024年パリオリンピックでも、パリ市内の一般道で自転車競技を開催予定であるので、このような警備は徹底されると想像される。オリンピックデーには、フランス各地で2024年に向けたイベントが開催され、気運を盛り上げる取り組みもなされていた。

2024年は、本報告で述べてきたような安全対策に加えて、感染症対策も徹底されることになるであろう。新型コロナ感染症のために、オリンピックなどのメガイベントを機



運として、開催国の政治や経済を活性化するというシナリオは、大きく変化を遂げようとしている。2024年にフランスやパリがどのような形で、新しい価値観を見だし、オリンピックを開催することになるのだろうか。「パリ協定」が掲げる脱炭素社会への移行や持続可能な大気汚染への対策は、コロナ感染症の拡大に伴い、どのように実現されようとするのであろうか。この先、フランスやパリの人々が、英知を結集し、どのようにコロナに立ち向かって2024年を迎えようとするのか、引き続き、調査を続けていく必要がある。そして、フランスをはじめ、世界中の人々が、ポストコロナ時代における新しい価値観とオリンピックやスポーツの在り方や関わり方を、どのように具現化していくのかを調査していく必要がある。

## 参考文献

- 原佳代、2019、フランスにおける大気汚染改善に向けた施策実施状況、運輸と経済79（11）、121-127。
- 竹島恵子、澤田大輔、2015、ロンドンオリンピック・パラリンピックと公共交通機関のバリアフリー（特集 東京オリンピック・パラリンピックへ向けた、新たな福祉まちづくり）、リハビリテーション研究、164、16-19。
- 秋山哲男、2015、オリンピック・パラリンピックにおける福祉のまちづくり：ロンドンから東京へ（特集 東京オリンピック・パラリンピックへ向けた、新たな福祉まちづくり）、164、13-15。
- 藤田紀昭、三井利仁、安藤佳代子、兒玉友、2019、イギリスの障がい者スポーツ視察報告、日本福祉大学スポーツ科学論集、2、51-66。

## 新聞記事（Web情報も含む）

- 朝日新聞デジタル、2020年3月24日、「遅くとも2021年夏までに五輪開催」 首相発言全文（最終アクセス日2021年1月28日）
- 毎日新聞、2019年4月17日版東京夕刊、マクロン大統領「5年以内に再建」 24年パリ五輪視察か ノートルダム大聖堂火災
- ・ LADEPECHE.fr, 2019年6月23日, Toulouse. Journée olympique sur les bords de Garonne : une réussite totale, <https://www.ladepeche.fr/2019/06/23/journee-olympique-sur-les-bords-de-garonne-une-reussite-totale,8272866.php>（最終アクセス日2021年1月28日）
  - ・ le Parisien, 2019年5月19日, En 2024, un grand jardin reliera le Trocadéro à la tour Eiffel, <https://www.leparisien.fr/paris-75/en-2024-un-grand-jardin-reliera-le-trocadero-a-la-tour-eiffel-21-05-2019-8076675.php>（最終アクセス日2021年1月28日）

## Web情報

- ・ olympic.org, paris 2024 map, <https://stillmed.olympic.org/media/Document%20Library/OlympicOrg/Games/Summer-Games/Games-Candidate-Cities-2024/Paris-2024-Map-EN.pdf>（最終アクセス日2021年1月28日）

- ・ 在日フランス大使館、2018年12月31日最終更新、パリ2024の勝利に貢献したフランス外交、<https://jp.ambafrance.org/article11114>（最終アクセス日2021年1月28日）
- ・ Explore France、2019年11月19日、グラン・パレ、ヴィルモット氏による仮施設のデザイン発表、<https://jp.france.fr/ja/paris/article/grand-palais-structure-wilmotte>（最終アクセス日2021年1月28日）
- ・ 渡瀬澄彦、2020、コロナ危機の影響受ける24年パリ五輪の開催準備、世界経済論評IMPACT、2020年9月28日、<http://www.world-economic-review.jp/impact/article1900.html>（最終アクセス日2021年1月28日）
- ・ AFP BBNews、2020年9月20日、仏、自転車補助金制度を拡充 コロナで公共交通の混雑緩和を目指す、<https://www.afpbb.com/articles/-/3305197>（最終アクセス日2021年1月28日）
- ・ ツールーズ観光局プレス資料、2015、[http://jp.media.france.fr/sites/default/files/document/press\\_release/ツールーズ観光局プレス資料2015.pdf](http://jp.media.france.fr/sites/default/files/document/press_release/ツールーズ観光局プレス資料2015.pdf)（最終アクセス日2021年1月28日）

## 謝辞

本調査の実施にあたり、ツールーズ第3大学のクリスティン・メネソン先生には大変お世話になった。また、筆者の留学に際し、親身に相談にのってくださった本学文学部の北原ルミ先生をはじめ、国内外の多くの先生方のお世話になった。フランス国内においても、ツールーズ日本語補習校やspring.labの皆様、友人としてサポートしてくれたルーシー氏、マックス氏には、この場をお借りして、あらためてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

なお、本調査は、金城学院大学特別研究助成費【研究D】（海外研修）の助成により実現した。